

◆5番(勝山秀夫議員) 5番、公明党長野市議員団、勝山秀夫でございます。

空き家対策について伺います。

全国の空き家件数は、2013年の時点で約820万戸、空き家率は13.5パーセントであります。空き家件数は、2033年に2,167万戸まで増加すると言われています。

諸外国の空き家率を見ると、フランスは4パーセント、ドイツは6パーセント、このパーセンテージでも、現地では大問題になっています。そのようなことから、日本の空き家率が異常事態であることが分かります。

長野市も近年、空き家が増え、本年度、空き家対策室を新設し、空き家の情報の収集と発信を行ったり、長野市空き家等対策計画の作成に取り組んでいるところでありますが、ここで伺います。

長野市の現在の空き家数、空き家率、特に中山間地域の空き家率を教えてください。また、長野市空き家バンクの利用者数、登録物件数、契約数を伺います。

長野市の空き家について、どのような課題があると捉えているか、御所見を伺います。

(5番 勝山秀夫議員 質問席へ移動)

◎建設部長(島田純一) 初めに、本市が昨年度実施した空き家の実態調査結果では、不動産物件として管理しているアパートやマンションの空き住戸を除く市内の空き家件数は8,063棟で、平均空き家率は4.8パーセントでございました。

この空き家数につきましては、市内32行政連絡区ごとに集計をしており、行政連絡区域内の全てが中山間地域である西部9地区の空き家率は20パーセントを超え、平均空き家率は25パーセント、最大は大岡地区の44パーセントでございました。

次に、空き家バンクの現状についてですが、9月8日現在での利用者数は、空き家を売りたい又は貸したいという方が27人、一方で、空き家を買いたい又は借りたい方が34人の合計で61人の方に利用登録をいただいております。

なお、平成27年度の制度開始以降の契約数は21件でございます。

次に、空き家の実態調査や窓口相談などから見えてきた課題ですが、所有や相続に関しては所有者の高齢化ですとか、周辺環境への影響に対する配慮が希薄であること、相続人が別に居住しており、利用する意向がないこと、などとなっております。

また、管理に関しては、遠方に居住していることや年齢、体力的問題により、定期的な管理が難しいこと、地域住民が空き家の異常に気が付いても、所有者に連絡がとれない、などとなっております。

この他、低所得等により解体費用の捻出が困難であることや、問題解決のための専門知識や相談先などの情報が不足していることなどが考えられます。

◆5番(勝山秀夫議員) このような状況の中ではありますが、国土交通省は空き家、空き地の所有者と利用者をインターネット上でマッチングさせる自治体運営の空き家・空き地バンクを集約し、全国版のサイトであるLIFULL HOME'S 空き家バンクをスタート

させるとの報道がありました。

この全国版の空き家バンクを簡単に説明しますと、全国の自治体に空き家バンクシステムを無償で提供します。地方自治体は空き家バンクに情報を登録、空き家利活用希望者は、インターネットで全国の物件をワンストップで検索できるようになり、条件に見合った入居先を見付けやすくなります。実際に現地で確認したい場合や、より詳しい情報を得たい場合は、物件のある自治体に問い合わせる仕組みになっています。

現在、全国の1,740の市区町村の約4割に当たる685の自治体で、独自の空き家バンク、空き地バンクを実施していますが、情報が点在していたり、公開形式や情報のフォーマットがばらばらで、比較検討が困難になっているのが現状であります。

この全国版の空き家バンクによって、このような課題が解決され、物件の選択肢が増えることにより、全国の空き家対策、中古住宅の流通、移住・定住が促進されることが期待されます。

9月には、LIFULL HOME'S 空き家バンクのベータ版をウェブサイトリリースする予定になっており、既に70以上の自治体が参加表明しているとのこと。

長野市も空き家の利活用、移住・定住対策を促進する上で、全国版の空き家バンクの利用は重要と考えます。長野市でも早急に準備を進めるべきだと思いますが、御所見を伺います。

◎企画政策部長(増田武美) 本市の空き家バンクは、長野県楽園信州空き家バンクと情報を共有しており、同バンクでの検索が可能であるとともに、当然ながら、本市独自の空き家バンクからの検索も可能となっております。

しかしながら、幾つかの自治体を移住先の候補としている方などが、議員御指摘のように全国から広く空き家を探す場合には、複数の自治体のホームページを検索確認することが必要であることから、比較検討に手間と時間が掛かるという課題がございます。

全国版空き家・空き地バンクでは、建物面積や間取りなどの検索項目が統一されることから、比較検討が容易になり、東京から1時間半という本市の移住につながる可能性が高まるというふうに考えております。

そのため今後、全国版への参画を目指して空き家バンクの情報を共有している県との協議を進めてまいりたいというふうに考えております。

◆5番(勝山秀夫議員) 全国版空き家バンクは、日本人だけでなく外国人も閲覧すると予想されております。空き家の利活用、移住・定住対策をしっかりと進めていただきたいと思います。

次に、公共交通の利用に関する情報提供について伺います。

本年5月より、長野市はより多くの市民の皆様に気軽にバスを利用していただくことを目的に、長野市バスマップを作成し、配布を開始しました。また、長野県において

は、4月より観光情報や県内の公共交通案内が便利に活用できるスマートフォン向け無料アプリ信州ナビの運用が開始されました。これらの取組で、長野市内の公共交通の情報提供の充実が図られましたが、ここで伺います。

平成 27 年に策定した長野市公共交通ビジョンの推進施策の項目の中に、目的地検索、乗継案内、時刻表、運賃などの情報検索サイトをインターネット上に構築し、提供します、とあります。先ほど紹介した信州ナビで、この役割は果たせると思います。

今後、長野市として情報検索サイトを立ち上げる予定なのか。それとも信州ナビを利用して、長野市として新たなサイトは立ち上げる予定はないのかを伺います。

◎都市整備部長(上平敏久) 信州ナビについて、市独自の情報検索サイトを立ち上げるのかという御質問ですが、信州ナビは県全域を対象にきめ細かく情報提供されておりますので、同様の仕組みを構築することは、市としては考えておりません。

なお、一方で更なるサービス向上の観点では、信州ナビの機能やコンテンツを2次利用することを検討しております。

具体的には、家にいながらバスの運行状況が確認でき、バス待ちの心理的負担を軽減するバスロケーションシステムを信州ナビに付加するものでございます。

システムの導入につきましては、主体はバス事業者の皆様ということになりますが、市といたしましても、初期投資などに必要な支援をすることも視野に入れ、県や事業者と共に検討してまいりたいと考えております。

◆5番(勝山秀夫議員) この信州ナビですが、今までできなかった電車、バス、タクシーなど、複数の公共交通を利用しての移動検索ができます。私も幾つか検索してみました。例えば、私の下駒沢の自宅から松代荘までを信州ナビで検索してみました。すると、東北ぐるりん号、電車、長電バスを利用して松代荘に到着するルート、料金1,190 円、所要時間2時間と瞬時に検索ができました。

今まで分かりづらかった公共交通機関を利用したルート、料金、時間を出発地、目的地、時間を任意で設定し、瞬時に検索できるようになり、大変便利になったと感じます。

しかし、市内でこのような機能を本当に必要としているのは、スマートフォンやパソコンをふだん使っている世代や自家用車を持っている方ではなく、どちらかというと、自家用車を持っていない高齢者ではないかと感じます。市内の高齢者におでかけサポートと同様、信州ナビもPRしていただきたいと思いますが、御所見を伺います。

また、スマートフォンやタブレットが使えない高齢者に信州ナビの検索を代行で行うサービスを交通政策課、高齢者福祉課又は各支所などで行ってみたいかと思いますが、御所見を伺います。

◎保健福祉部長(竹内裕治) 最初に、信州ナビのPRについてお答えいたします。

平成 27 年度版の情報通信白書によりますと、60 歳以上のスマートフォン普及率は 36.7 パーセントとなっており、3人に1人以上が信州ナビを使用できる環境にあること

から、高齢者に対しPRすることは効果が期待できると考えます。

PRの方法は、アプリの使用方法について、市ホームページに掲載することや、本市から送付しているおでかけパスポートの御案内に信州ナビの情報を同封することが考えられます。

本市とバス事業者による、おでかけパスポート実行委員会幹事会においても、おでかけパスポートの利用促進について協議をしておりますので、更なる有効な活用方法を検討してまいります。

次に、信州ナビの検索代行サービスの実施についてお答えいたします。

これまでも窓口に来られた高齢者に対しましては、長野市バスマップやインターネット等を利用して、バス路線名や乗継方法等を御案内しておりますが、信州ナビを活用することにより、目的地までのルートを複数表示することが可能になるため、実際の利用方法に合わせた御案内が可能になると思われます。

ただし、インターネットに接続できるパソコンの数が限られていたり、検索処理にも時間が掛かるため、状況によってはお待たせしてしまうことも予想されますが、検索結果を印刷してお渡しするなど、信州ナビを使った情報提供もしてまいりたいと考えております。

◆5番(勝山秀夫議員) 今後、自動車を運転できない高齢者がますます増加すると予想されます。前向きな検討をよろしくお願いいたします。

続きまして、高齢化社会と公営住宅の課題について伺います。

高齢化の進展により、公営住宅の様々な課題を耳にします。例えば、今、市営住宅の4階に住んでいます。若い頃は良かったが、最近、年をとって階段を上がるのが大変になってきた。これから更に年をとると、お米など重い荷物を持って階段を上れない。低層階に引っ越したいが、そうすると、通常の募集と同じになってしまう。将来が不安です、という声。また、市営住宅に住んでいるが、住んでいるのが高齢者ばかりで、区の役員、民生委員など、地域の役員のなり手がなくて、大変苦労している等、お聞きします。

高齢者への低層階の引っ越しに対する支援、市営住宅の住民が幅広い年齢層で構成されるような施策、もしそれが困難であれば、高齢化率の高い市営住宅の役員の担い手の支援が必要と考えます。これは市営住宅だけでなく、県営住宅でも同じことが言えます。公営住宅の現状の課題の把握、対策はどのようにされているか伺います。

◎建設部長(島田純一) 市営住宅におきましても、高齢者の割合が年々高まっており、8月末現在、エレベーターの無い3階以上の階で65歳以上の高齢者が入居している世帯は165世帯で、対象住宅の3割強を占める状況となっております。

現在、既存の入居者の低階層への移動希望につきましては、新たに応募する入居希望者との公平性に配慮し、通常の募集に申し込んでいただいております。

しかしながら、議員に御指摘いただいた例も増えております。今後、高齢者、障害者等の居住の安定を図る観点から公募を経ないで入居する――いわゆる特定入居についても検討してまいりたいと考えております。

また、住民の年齢層の構成については、若者世帯の入居を促進するための優先入居枠の確保等について研究をしてまいりたいと考えております。若者世帯を増やすことで、地域役員の担い手の確保も図れるものと考えております。

さらに、市では長野市公営住宅等長寿命化計画に基づき施設の改善を実施しており、現在改修を行っている返目団地では、高齢者や障害者に配慮したエレベーターの設置や若者世帯の入居促進のための間取りの変更をする等の改善を実施しております。

今後も幅広い年齢層で構成される住宅を目指し、改修等を引き続き実施してまいりたいと考えております。

◆5番(勝山秀夫議員) 前向きな答弁ありがとうございます。

今後、更に高齢化社会が進み、このような問題が増加すると思われます。しっかりと実態調査、ニーズをしっかりとつかんでいただき、対応していただきたいと思います。

続きまして、自殺対策について伺います。

8月21日、長野県と無料通信アプリ――LINEは、LINE上で中高生の自殺やいじめに関する相談を受け付ける試験事業を行う連携協定を結びました。これは公明党長野県本部青年局が今年2月に阿部知事に、LINEなどSNSを活用した自殺対策を要望し、その動きをLINEの社員が注目し、長野県の若者の自殺対策に協力したいとの申出があり、実現したものであります。

試験事業は、9月10日から2週間行われています。県はLINEアカウント――ひとりで悩まないで@長野、を開設し、中学生、高校生に登録を促すQRコードを配布しました。

生徒から寄せられた悩みに対して、県が委託する相談員がメッセージを送り、問題の解決策などを探っていきます。

LINEを使った相談は、10代が気軽に相談でき、新しい自殺対策の一つとして期待が高まるところでありますが、ここで伺います。

長野市の中高生のQRコードの配布状況と登録状況を伺います。

◎教育次長(熊谷久仁彦) 県が開設したLINEアカウント――ひとりで悩まないで@長野、への登録を促すQRコードの配布につきましては、県の知事部局から直接、県内全ての中学校、高等学校に配布され、市教育委員会には8月21日付けで通知があり、承知したところでございます。

登録状況につきましては、県教育委員会に照会いたしましたところ、このシステムの運用は事業者へ委託しており、登録者数は把握しているものの、各市町村別には把握できないということでございました。

◆5番(勝山秀夫議員) 今後、長野市において、自殺対策計画が策定される予定になっていますが、そのポイントは、誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指すということと、若者の自殺対策であると思います。

そのためにも、新しい自殺対策の一つの取組であるLINEの自殺対策の登録をしっかりと推進していただくことを要望しまして、質問を終わります。